

ブガ球体について パート2

科学者たちは何と言っているか

ディック・ラッセル

2025 年 6 月 30 日

スティーブン・グリア博士の好意的な推薦により私のサブスタックに1000人を越える新規登録者がありました。

最初にその方たちのご参加に感謝申し上げます。

私は UFO/UAP 現象関連の出来事に対する独自の見解を読者にお伝えすべく、週に2度関連記事を発表することを心掛けています。

来年には本も出版予定ですが、その本では誰もが関心を寄せる環境問題、公衆衛生なども論じます。

最近メキシコシティで世界中の主要な UFO 研究家や信頼度の高い科学者や目撃証人たちが集まり、驚異的な体験が明かされた。

私はブガ球体の実物と接する機会を得た。そして球体に刻印された三日月などのシンボルを意識の内に深く感じ取りつつ、自分が今目の前にしているものはいったい何なのかと思い悩んだが、私の感覚はこの物体との出会いは歴史的な瞬間なのだと訴えていた。



(グッチ:真ん中の「チップ」を「三日月」が取り巻いている)

今年の3月にコロンビアで回収された青い金属製のバスケットボール大の物体について私がこれから書く内容は暫定的なものとみなしていただきたい。

この球体の研究は UNAM(メキシコ国立自治大学)が球体の管理人であるハイメ・マウサンとのコラボで行い、ディスクロージャー・プロジェクトの創始者スティーブン・グリア博士率いるチームの協力により行われている。

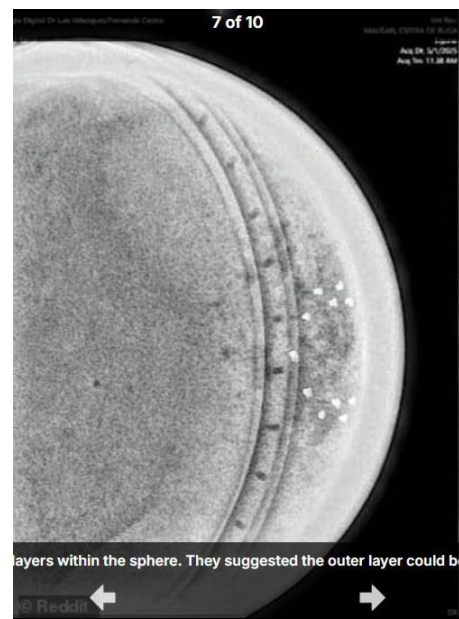
この状況が強い関心を引きしているのは、これが民間人の回収した最初の UFO であり、政府に参加していない科学者たちが真実を見つけ出しそれを一般に公開することを唯一の目的として独自に研究しているからである。

これまでに判明した事実から言えることは、見つかった真実は私たちの常識を超えるものだった。「これは極めて珍しいものです。こんなものは見たことがない」と放射線画像解析専門家のジョー・ルイス・ベラスケスは言う。彼のチームの X 線解析によると、人が作った形跡となるような接合部や溶接部、ネジやパネルがない。球体の滑らかな表層は密度が異なる3つの金属状の層で構成されており、表面には科学者たちがチップと呼んでいる中心核を18(グッチ:16に見える)の小粒の小球が整然と取り巻いている。

球体の内部を調べるためにカットすることはしていないし今後もしないが、デジタル・マイクロスコープを用い通常の出力で2000回スキャンしている。その結果、さまざまな色の光ファイバー状の物が複雑に入り組んで詰まっていることが判明し科学者たち

を驚かせた。これは球体が信号を送受信できたり、球体の周囲にあるものすべてを検出するセンサーの働きをしていることを示唆している。

球体内部に潜んでいる配線はさまざまな方向に伸びてリングを形成し、そのリングの上に31個の黒くて小さな樹脂の入った穴が並んでいる。球体は 72%のアルミニウムと 22%のシリコンで出来ており、その球体表面の銅製の突起の先端に配線がつながっている。(過去を振り返ると 1994 年にフリップ・コースー大佐が回収された ET 宇宙船から光ファイバーが見つかったと主張し、自分はそのような技術を米国の産業に導入する任を帯びていると語ったことがある)。



(写真左:メキシコシティにあるハイメ・マウサンスタジオに用意された実験室で作業する科学者たち。写真右:球体の側面。樹脂の入った穴が並んでいる)

球体は不規則な飛行パターンを見せたあと地表に落ちた。高圧線に触れて落下した直後物体は4ポンド強の重さがあったけれど、不思議なことにその後徐々に重量を増し続けている。人の手に渡ってから3カ月たった時点で物体は体積がいっさい変わら

ないのに20ポンドを超えるまでになった。私のブガ球体レポート1についてコメントした人物はこの件について以下のように述べている：

「私の考えでは球体が重量を増したのは球体内にある装置が振動数を減じたからだと思います。ある種の発信機や発電機のようなものが内部にあって、それがふだんは球体素材と同じ周波数で振動し共鳴しているのですが。」

あるエンジニアの推測ではこの重量増加は球体が空中を飛ぶための重力コントロール装置をもっているからだろうという。UNAM 大学と共に3月からこの球体の研究をしているロドルフォ・ガリドによると球体は空中浮揚のために自ら電磁フィールドを生成できるのだらうという。彼の説によると「球体は浮揚しているとき自分を送り込んだ者とダイレクトにコミュニケーションができるのかもしれない」という。

記者会見の席でガリドは1900年代初期のパイオニア的発明家ニコラ・テスラが考案した装置を紹介し、球体との魅力的な比較をしてくれた。そのテスラの装置とは電力を有線ではなく空気や大地経由で送るウォーデンクリフ・タワーだ。この装置は家庭や仕事場、さらに船舶にも無料か格安でエネルギーを提供できる可能性を秘めている。球体も内部にミニチュア・タワーを備えていて、同じような働きをするのではないかと。



(グッチ：参考写真)

ガリドがやったもうひとつの比較はブルーニングスパイダー(空飛ぶ蜘蛛)だった。

(参考 [【ウルTRASロー動画】空飛ぶクモ【Chronos 2.1 Highspeed】](#))

この現象はチャールズ・ダーウィンが最初に観察したものだ。この種の蜘蛛は羽なしに何百マイルも旅することができる。気流や電界を利用し、極端に軽い蜘蛛の糸をそ

の流れに乗せて飛ぶのだ。その際蜘蛛は静電気を発生させてプロペラのように回転する。ガリドは球体も同様に周囲からエネルギーを補給して回転し、空中浮揚を始めるのかもしれないという。

重量増加とは別にもうひとつ不思議なことが起こっている。球体が最初に拾われたとき、「触ってみると冷凍庫のような冷たさだった」。しかし球体そのものからは強い熱気が放射されていた。のちの実験で球体に水が注がれると、冷たいはずなのに蒸気を発した。さらなる不思議もある。球体はなぜ落ちた場所の水分を奪ったのか？UNAM大学の研究者たちは目に見えないエネルギーのようなものが草や土壌から水分を奪ってしまったのかもしれないという。そのエネルギーはひょっとすると陰イオンと呼ばれるもので、空中に漂う微粒子がその電荷を運んでいるのかもしれないと。

さて球体表面にはシンボルが刻まれている。メキシコで記者会見を行う前の週にグリア博士はある内部通報者と会談をしていた。その人物はインディアナ州の地下秘密軍事基地でETたちが通信に使うデバイスだと言われている機器を見たことがあるが、その機器にブガ球体のものとよく似たシンボルがあったという。この種の記号は1980年に英国のレンデルシャムの森で兵隊たちが着陸しているのを目撃したET宇宙船にもあったし、1947年に起こった有名なロズウェル事件の墜落した宇宙船にもあった。マウサンはブガ球体にあるいくつかのシンボルの初期的な分析によると、それらはとても古いものだという(それに対する反論がサンディエゴ大学・物理学&生物物理学科のユリア・モスブリジ博士からすぐに出た。彼女は球体の写真を見て、球体上のシンボルは人間が拵えたアートプロジェクトに似ているという)。

グリア博士はなぜコロンビア上空ではブガ球体だけでなく、同じような物体が目撃され続けているのかという疑問を投げかけた。「南米では広範囲にわたって地球物理学的不安定さが存在していることを科学者たちが追跡調査している。私は不吉なことを言うつもりはないが、これらの物体は地球物理学的な変異をキャッチして活動しているのではないだろうか？ブガ球体の起源は地球のどこにあるのだろうか、それとも宇宙にあるのだろうか？地球外のコミュニケーションシステムに繋がっていたのだろうか。テストの結果が出たら、私たちはもっと多くのことを知れるだろう。ブガ球体はすごく古いものかもしれない。炭素14のテスト結果でどれくらい古いものか分かるだろう。」

6月7日にはブガ市から43マイルほど離れたユンバのサトウキビ畑でブガ球体とよく似た球体一個がジグザク飛行やその他通常の飛行物体とは異なる動きをしている様子をビデオに撮られた。マウサンによれば「これらの球体は調査をし、我々を観察して

いるのだと思われる。たぶんブガで回収された機体を探しているのだと思う。」もし関心があればこの[ビデオリンク](#)をクリックしてほしい。

マウサンはブガ球体の本来のパワーを取り戻すために充電を試みようと思った。そうすれば球体は回転し始め、また空中浮揚をするだろうと。グリア博士はブガ球体は「UFOの動きを私たちに説明してくれるだろう」と考えているが、球体を再起動する試みには困難さがあるという。「球体に高電圧をかけた場合、球体内部のエネルギーや推進能力にどのくらいダメージを与えるか分からない。だから私たちがもっとやるべきことはより良い知見を得ることであり、球体内部の映像をもっと撮り、内部のマップを作ることだ。内部を調べれば調べるほど、分かることより分からないことの方が増えている。」

ブガ球体が回収される様子やユバ球体が飛ぶ様子を撮ったビデオは鑑定・認証されている。AIで作成したとか、フェイク動画とかではない。

記者会見の翌日、会見で明かされたことに「当局」が強い興味を示した。6月21日の夕方、2名の制服を着た男たちが警察だと言いながらマウサンがブガ球体を保管している金庫室の前に突然現れた。そして球体は政府に収めるのが適切な工芸品であると主張しながら没収しようとした。その試みは成功しなかった。マウサンはこの事件以降セキュリティを高め、グリア博士は声明を出した：

この(科学的な)調査を妨害するいかなる試みも公けに晒られ、加害者たちはその責任を負うことになる。

最後につけ加えておきたいが、検証の結果ブガ球体は地球由来ではない公算が非常に強いと思われる。ハイレベルの資格をもった熟練の科学者たちを交えた研究チームは私たちが宇宙に唯一の知的生命体ではないことを立証することで前例のない稀有のブレイクスルーを近々行うことになるかもしれない。